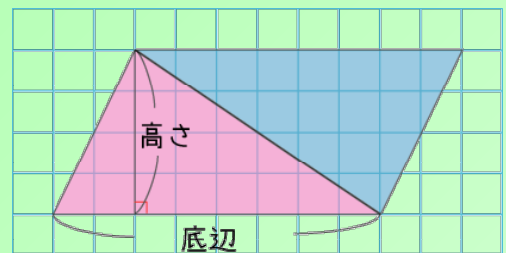


Q：図形の面積を求める内容を指導する上で、三角形と平行四辺形のどちらから導入するのがよいでしょうか。【5年】

A：三角形と平行四辺形，どちらの求積から導入するにしても理由があります。児童の実態や指導計画，教科書の扱いなどに照らして決めてください。

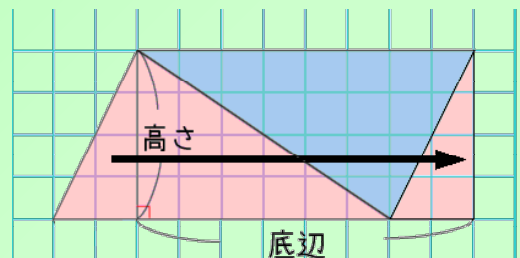
<三角形から導入する理由>

- ・全ての多角形は必ず三角形に分割できるので，最も有用性が高い三角形を基本に考えていろいろな場面で実際に適用できる。
- ・身の回りに三角形に比べ、平行四辺形のものが少ない。
- ・平行四辺形の面積を求める学習の際，長方形に変形して考えることも三角形に分割して考えることもできる。
- ・高さが外側に出る三角形については，回転移動による等積変形の考えの他に，平行四辺形の半分と考えることができる。
- ・高さが外側に出る図形は三角形だけでなく平行四辺形にもあるので，それらを特殊なものとしてまとめて取り上げることができる。



<平行四辺形から導入する理由>

- ・平行四辺形は既習の長方形に等積変形しやすい。三角形からだ，直角三角形を除き，面積を求めるには頂点からの垂線によって2つの直角三角形に分割して面積を求めなければならない。
- ・平行四辺形の方が，長方形に等積変形する仕方がいろいろ考えられる。また，三角形や台形においても，既習の図形と帰着して考える上で多様な考えを引き出すことができる。
- ・三角形の面積＝平行四辺形の面積÷2であることから，三角形の面積が導きやすい。三角形から導入する場合，三角形の面積（底辺×高さ÷2）を再度2倍することになり，下位の児童には2でわったものを2倍するということが混乱する要因となりかねない。



三角形と平行四辺形，どちらから導入するにせよ，既習事項を活かすこと，児童の多様な考えを取り上げること，解決方法を通して1つの式（公式）にまとめられることなどをおさえて学習を進めていくことが肝要です。